

脱炭素アクションの実践結果（概要）

（脱炭素ふじさわ市民会議 2025. 12. 20）

<h3>1. 自宅を断熱リフォームする</h3>	<p>実践の概要 : 実際にやってみた : 4名 すでに過去実施した : 3名 調べてみた。 : 3名</p>
<p>実践を通じた気づき・克服すべき課題</p>	<p>上記課題を解決し、藤沢で広げるための提案</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ サンルームのアコーディオン型を特注したが、集合住宅では規制が多くなかなか難しい。 ・ 実際に断熱性能の高い住居に住んでいる。断熱性能の高い住居で非常に快適。ただ、新築戸建ての購入にせよ、改築・修繕にせよ、断熱性を重視すれば、資金面での負担は増える。やはり、補助金税制面での優遇など、公的支援が必要。 ・ 既設住宅への窓リノベ補助の対象に、オーダーメイド施工も加えて欲しい。 ・ 「先進的窓リノベ事業」として補助金を受けたが、補助金は有効。 ・ リフォームは断熱としても大きな効果があった。結露がなくなり遮音性が高くなる等生活の質が向上した。快適な住まいの追及が結果的に断熱に繋がることをアピールすべき。 ・ 賃貸なので、大した断熱効果のあるDIYはできないし、リフォームもできず。DIYは得意不得意がある。賃貸は住宅を建てる人（大家）にとっては、断熱効果のある素材や窓をつけることにメリットがない。住宅を新築時に断熱効果のある素材を使うことを義務づけたり、既存の住宅に対しても、断熱効果のある窓に切り替えることを義務づける。ただ、その費用が家賃に反映され借家人に負担がかかりすぎないような仕組みが必要。 ・ 自分でDIYするには大変だし、費用を出してくれる制度、担保は自宅か生命保険で返済は利息のみで出来る。 ・ サッシ交換：マンションで行ったので個人的な努力はしなかった。 ・ ユニットバス交換：劣化による交換をするものなので、ユニットバス自体の性能向上に委ねるしかないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お金を掛けずにエコ出来るアイデアを纏めた冊子が必要。 ・ 断熱性能の高い住居が快適な暮らしに繋がり、同時に光熱費の節約になり、更に脱炭素につながるというのは、感覚的に極めてわかりやすい。居住体験のような機会と場所が必要といえる。 ・ 国の補助制度で扱っていない部分…市独自の補助を。 ・ 住宅のリフォームは生活や家族の変化がきっかけで実施することが多いと思うので、対象となり得る人とタイミングに照準を合わせた働きかけが必要。 ・ 気軽にできる断熱DIYのやり方を藤沢市ホームページや広報で紹介する。親子の工作教室などで断熱DIYをやる。子供のころから脱炭素の認識を持てるような教育を取り入れる。 ・ 泡断熱は省エネだ！補助金もある。広報で宣伝してほしい。 ・ 助成金は色々あるが、わかりにくく、利用しにくいので、分かりやすくなると良い。 ・ 必要なサービスを行なう要員（団体）を確保する。 ・ 10.ピフォーアフターを体感できるイベントや、自分ごととして知ってもらい取組みがあるといいと思う。やってみたいと思っている人へ後押しできるような、手軽さも必要だ。

2. 省エネ型家電に切り替える		実践の概要 : 実際にやってみた:5名/調べてみた:3名/既の実施済み:1名
実践を通じた気づき・克服すべき課題	上記課題を解決し、藤沢で広げるための提案	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 照明の LED 化は取り組みやすい ・ 廊下やトイレなどに人感センサーをつけるとよい ・ 処分の手間と費用を考慮すると現家電と省エネ家電は単純に比較できず難しい ・ 家庭の省エネ対策において冷蔵庫は優先度が高い ・ 冷蔵庫の情報が多岐に渡っており整理するのが大変 ・ 省エネ家電への切り替えにより節約になったとしても、不便になるなら切り替えたくない ・ 賃貸の場合、省エネ化を大家・管理会社に確認・依頼するのが大変で時間もかかる ・ 賃貸の管理会社・大家の意識改革が絶対に必要 ・ 照明の配線替えには免許が必要；免許保持者がボランティアでやる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネ家電への負担を軽減するしくみをつくる（補助金、買い替えキャンペーン、リサイクル料金割引など） ・ 家電リサイクルの仕組みをもっと利用しやすくする ・ 量販店における表示をわかりやすく、一目で理解できるようにする ・ 導入後の節約額や CO2 削減量を見える化し、市民どうしが情報交換できるとよい ・ LED 切り替え補助の対象に個人宅も含めてほしい ・ 集合住宅の貸与者に意識改革を求めると同時に、補助金等を出して切り替えを推進する ・ 公共施設などへの LED 照明導入と効果を見える化し、住宅にも取り入れたいと思った市民が必要な情報を得られるよう誘導する ・ 家電リユース工場への投資支援、リユース家電への軽減税率の適用など、新品至上主義からの脱却をはかる ・ 月二回発行の「広報ふじさわ」にスペースを確保し、省エネ製品についての情報発信をする。毎回データを掲載し続けることで基礎知識が身につくエコライフの実践に役立つのではないか ・ アクションを実施している市民のインタビューや動画を SNS 等で発信する ・ エコの取り組みが家計にも暮らしにもメリットがあることを市民が実感できるよう、暮らしの質を保ちながら環境にも貢献できる「報われるエコ」という方向性を出し、住みたい・住み続けたいと思われる街づくりを 	
疑問点・専門家への質問事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在使っている高エネ家電をリサイクルして新たに省エネ家電を買うことは本当にエコなのか？リサイクル/処分にもなう環境負荷は？ 	

3. 自宅に太陽光パネルを設置する		実践の概要 : 実際にやってみた:1名/調べてみた:6名/既の実施済み:3名
実践を通じた気づき・克服すべき課題	上記課題を解決し、藤沢で広げるための提案	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光パネルの廃棄・リサイクル、有害物質の処理等の環境に関わる諸課題を検討して最適を図りたい ・ 太陽光パネル導入について情報収集に時間がかかる ・ 太陽光パネルとポータブル電源をマンションのバルコニーに設置する場合の具体的な方法がわからない ・ 庭でポータブル電源の充電を実施したが、冬場の日照時間と日差しの角度による非効率な発電となった ・ 賃貸に住んでいる人にとっては実際に太陽光発電に関わることがなくできることが少ない ・ 太陽光発電と蓄電池の設置が高額で銀行のローンを組む必要がある ・ 太陽光システムはパネルとパワコンなどの電子・電気部品と寿命が大幅に異なり、価格が安価でないこと ・ 太陽光パネルのみの設置、蓄電池を含めた導入のどちらのメリットが大きいかが分からない ・ 分譲マンションにおいて、太陽光パネルを設置するまで区分所有者の同意を得るなど工程が簡単ではない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内での相談体制の充実; 中立的なアドバイザー、太陽光パネル設置実施者のネットワークを作る ・ 取り組める人を増やすため市内の銀行が脱炭素へ向けての取組みに対するローン金利を低くするなど費用支援の実施 ・ 住民意見をまとめ、導入につなげるためにマンション、集合住宅への太陽光パネル設置に補助金を ・ 藤沢市独自の太陽光パネルへの補助金の継続・拡充(ポータブル電源と対応する携帯型太陽光パネルにも)、外部に情報を積極的にアピールする ・ 太陽光パネルに関連する電気部品の保守義務を含む寿命を延ばし、後継機種を出すなど対応体制が必要 ・ メーカーや施工業者でない主催者による個人の住宅事情やニーズに合わせた施工例の提供、シミュレーションが行える場(セミナー、ワークショップ)等の提供 ・ 導入実績についての周知の必要性; 導入後の利用者の測定を積極的に行い、その結果の公表を実施 ・ 市民同士が考える場を作る; 色々な立場、意見を持つ者同士で和気あいあいと話し合う場を設ける ・ 太陽光パネルの廃棄問題への疑念を払拭していくアクションを実施 ・ メンテナンスを支える仕組み; 保守期間を20年とするよう指導、継続運用にモチベーションを保てる支援 ・ 脱炭素だけでは普及に限界があるため、太陽光発電が生活の質向上や災害対策などにメリットがあること、製品の性能向上等により導入に向けた費用面での負担軽減の経年変化をわかるよう伝える ・ 脱炭素の必要性を市内の学校教育の中で知る機会を作り、関心を高める 	
疑問点・専門家への質問事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 太陽光パネルの廃棄・リサイクル、有害物質の処理等の環境に関わる諸課題と解決策について ・ 補助金を利用した際に太陽光パネルのみの設置、蓄電池を含めた導入どちらのメリットが大きいのか? 	

<h2>4. 自宅の電力を再エネの契約に切り替える</h2>	<p>実践の概要：</p> <p>実際にやってみた：1名…同じ電力会社の脱炭素コースに変更 調べてみた：9名…切替の基準（視点）はコスト面とCO₂削減の面で検討している。 既に実施済み：1名</p>	
<p>実践を通じた気づき・克服すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電気料金に再エネプランがあることを知らなかった。 ・ 切り替えは簡単だった。 ・ WEB や HP では見ただけでは営業的な目的での案内が多く、デメリットなどが不明。 ・ 数目標達成するために各家庭で何をしなければならないのかが具体的に見えてこないことが問題。 ・ 地球温暖化の危機感、藤沢市の GHG 削減目標、目標達成のための具体策のいずれも市民に十分伝わっていない。 ・ コストを払ってまで実施するかどうか悩むところ。 ・ パワーシフトの会社が多くはない。国、県、市等の補助がたりないのではないかな。 ・ 情報の開示、CO₂ 排出係数や料金体系などを分かり易く記載し、本当の再エネかどうかの確認が必要。 ・ 国の全世帯が再エネプランにできるほどの再エネ電気が十分に供給できるようになるためには太陽光発電システムをもっと広く設置することが必要。 ・ 官民あげての情報発信：契約変更で何が変わるのか。これによって脱炭素への取り組みに貢献できることを発信する。講演会などに積極的に参加する。 	<p>上記課題を解決し、藤沢で広げるための提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 藤沢市など信頼のおけるところからの情報発信：情報の開示、情報をまとめたサイト開設、 ・ 講演会、宣伝・教育など。 ・ 再エネプラン切り替えポイント制度、コスト面での補助制度 ・ 再エネ電気の導入について金融機関とも連携し、参入企業や個人にとって、よりメリットがあるようにする。 ・ 藤沢独自の「地産地消電力」ブランドをつくり、藤沢市の公共施設の再エネ化を優先的に進めて、再エネを身近に感じてもらう工夫・実践。 	
<p>疑問点・専門家への質問事項</p>	<p>①藤沢市の海(ブルーカーボン)と緑(グリーンカーボン)で、どの程度の CO₂ 吸収量をめざせるのか？</p> <p>②カーボンニュートラルの概念の理解を深めることが効果的</p>	

5. エコライフを実践する		実践の概要 : 実際にやってみた:6名 調べてみた:2名
実践内容 <ul style="list-style-type: none"> ● デコ活の確認と実践 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境省の「デコ活」(脱炭素につながる新しい豊かな暮らし)を調べ、全課題項目がデコ活に該当することを確認。 ・ グリーンライフ・ポイント制度を利用し、厚手の靴下を購入するなど一部実践 ・ ただし、脱炭素への実感は薄いという意見も 	<ul style="list-style-type: none"> ● 節約・省エネ <ul style="list-style-type: none"> ・ 水・ガス ・歯磨きや食器洗いの流しっぱなし防止 ・ トイレの便座を閉める ・節水シャワーヘッド・節水水栓への交換 ● 電気・照明 <ul style="list-style-type: none"> ・ LED 照明への切り替え ・不在場所の消灯徹底 ・ テレビの減光・減音 ・ Wi-Fi ルーター等の待機電力を「まごの手スイッチ」で制御 	<ul style="list-style-type: none"> ● 温度調整の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 暖房設定温度 18℃・冷房 28℃(扇風機併用)の実現。寒い日は重ね着 ・ 洗濯可能な便座シートの利用(便座ヒーター不使用) ● その他の暮らしの工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 日の出の早い時期の「1人(家族)サマータイム」 ・ ワンプレート皿の活用(使用食器削減)、食品ロス対策
実践を通じた気づき・克服すべき課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 使い方の見直し…能登半島地震後の水の不足に心が痛み、朝の洗顔方法をタオルに水を含ませて使う方法に変更するなど、水の使い方を見直した ・ 光熱費の見える化…自宅の水道・ガス・電気のメーターを記録する「見える化」を行うことで、自分自身で気づきを得られる ・ 家族での工夫…電力消費で暖房が大であることを家族で話し合い、暖房をつける前に「着る」ことを実践。スリッパを家族分購入し、足元が温かいことで体感温度の変化を実感 ・ 暑さへの対応も考えては…日本の家屋は夏の暑さへの対応として通風を重視しているため、断熱重視だけでなく、窓の遮光など安価な対策が重要 ・ 新しい行動への挑戦はより困難…今までやっていないことに挑戦すること自体が大変 ・ 費用・効果の疑問…「設置価格が高価で、費用対効果で評価することに疑問がある」 ・ 家族のライフスタイルや体調への配慮…「家族にはやりたいこと、やらなければいけないことがあり、お風呂に入るタイミングが合わない。保温機能があっても湯が冷めてしまう」「家族に病人などがいる場合、体調管理のためにウォームビズやクールビズが難いかも。熱中症への注意も必要」「家族間でエコライフへの認識が異なる」 ・ フードロス削減の難しさ…食材を一人分だけ購入するのは難しい 	上記課題を解決し、藤沢で広げるための提案 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実感の欠如…取り組みやすいアクション。ただ、大変かどうかよりも、脱炭素への取組みに実感が伴わない点が、より本質的な問題ではないか ・ 効果の「見える化」と指標…取組が脱炭素貢献を示す指標や、電気使用削減量等、納得・実感を伴うしくみが必要。 ・ 情報発信…一人では気が付かないエコライフの具体的な方法について、発信している人のところへたどり着く方法があるとよい。 ・ 動機付け…子孫のために頑張ろうと思えるような動機づけ、因果関係を明確に知ることや、何らかの「ご褒美」といったインセンティブが必要。 ・ 「デコ活」の認知度向上…「デコ活」を、藤沢市民に広く認知してもらうことが最優先 ・ 住宅制度・環境の見直し…家同士が近いと日当たりが限られる。ぎゅうぎゅうに家を建てられる制度を行政が見直すべき。 ・ 公的支援…「断熱リフォームやLEDの導入は依然高価。支援が必要。」 ・ コワーキングスペース…フードコートや図書館の自習室にコンセントを設置。 ・ 啓発活動・教育・体験…セミナー等の開催。学校での学習、TV・ラジオ、広報誌への掲載等を通じて、どの年代の人にも当たり前前にエコライフに取り組めるように。学校教育を通じて脱炭素の知識や配慮の大切さを伝え、親や高齢者に伝わる流れを作る。脱炭素に貢献する、実感を伴うようなイベントやキャンペーンのあり方を工夫。市役所の一角に関係する実物や模型を展示、必要なサービスを行う要員(団体)を確保。「脱炭素タウン」のブランド化。 	

<h2>6. 高効率給湯器に切り替える</h2>	<p>実践の概要 : 実際にやってみた:3名/調べてみた:6名</p>
<p>実践を通じた気づき・克服すべき課題</p>	<p>上記課題を解決し、藤沢で広げるための提案</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ エコキュート、エネファーム、エコジョーズの違いの理解が難しく、また自分にはどれが合っているのか(ライフスタイル、コスト視点)も検討が難しい。 ・ 初期費用が大きく、家計への負担が大きい。投入費用よりも節約効果が確実に大きくなる訳でもないため、前向きな家庭は少ないのでは。<u>古い家への導入は非現実的。</u> ・ <u>工業者選びが難しい。</u> ・ 補助金の大幅UPか、町内会レベルでの集約導入はあるが、<u>個人的導入には負担が大。</u> ・ エコワンや床暖房の効率的な使い方についての理解は難しい。「<u>家庭ごとに合った最適設定が分かる仕組み</u>」が必要だ。外気温や生活パターン、間取り等を入力するだけで、電気とガスどちらを優先すべきか、床暖房をどの時間帯に使うと効率的かを示してくれるツールが必要。また、<u>導入後の光熱費の変化やCO₂削減量が見える化</u>されれば、取組み成果を実感。 ・ <u>市民向け“ハイブリッド給湯器・床暖房の最適設定ガイド”があれば、効率的な使い方が可能。</u>環境や生活の質を大切にす藤沢では、押しつけではなく、「<u>快適に暮らしながら自然を守る仕組み</u>」を整えることが大切。家計、防災、快適性等を犠牲にすることなく、暮らしの質を高めながらCO₂削減につながる道筋を示す。 ・ 新築、リフォームのタイミングで情報を提示され、検討し決断するといった流れがあれば導入可能性が高くなる。新築・リフォームする人以外にリーチするのであれば、より身近に感じてもらう広報・周知活動が必要。体験型の周知方法の活用。 ・ <u>省エネ、脱炭素、具体的アクションの啓蒙方針をしっかりと策定することが何より大事。</u> ・ <u>集合住宅・賃貸</u>では、<u>建築時に考慮するような仕組みは必要だ。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ※ <u>補助の必要性</u>・・・<u>家の建替時にエコキュート等を導入する場合に多額の補助金を出す。導入時の負担を下げる仕組みが必要。</u>補助金の拡充や市独自の上乘せ制度、リースや分割払いの普及 ・ 家庭での <u>CO₂削減の取組みの多くがコスト増を招く。国、自治体の補助は欠かせない。</u>再エネ賦課金を免除・減免するとか、何らかのインセンティブを与えればCO₂削減の取組みが進みやすくなるのではないか。 ※ <u>普及・広報等の拡充</u>・・・地球温暖化に対する危機感、市のGHG削減目標、具体策等が、市民に伝わっていない。市は、ネット、広報誌等で情報発信していると思われるが不十分。市民祭りやコンサートなどのイベントや江ノ島などの観光地で広報にもっと力を入れ、<u>普段関心が薄い人にも知ってもらう機会を増やすことが必要。</u>また<u>学校教育に取り入れてもよい。</u>メーカーによる広報の強化。 ※ <u>ガイドラインの整備</u>・・・エコワンのようなハイブリッド給湯器の最適運転方法や、床暖房の上手な使い方の分かりやすい「<u>ガイドライン</u>」が必要。 ※ <u>効果の見える化</u>・・・<u>実際に導入した市民の成功事例を共有したり、光熱費やCO₂削減の効果が見える化する仕組み。身近に感じる施策が市の施設で実践されると良いと思う。</u> ※ <u>賃貸・集合住宅対策</u>・・・貸与側の意識改革が必要。新築についてはエコタイプの機器が取り付けられるような想定がないと、居住者がエコ意識が高くてもどうにもならない。特に給湯器については、<u>古くて高効率ではないものは積極的に切り替えていくことは有効。</u> ※ <u>相談の場</u>・・・壊れる前の交換が大切。<u>気軽に相談できる場所や費用サポートがあると、古い機種からの買い替えが増えると思う。</u>